学校番号	1009

令和８年度　理科

教科	理科	科目	総合科学	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

私達の身の回りのものは、すべて物質でできている。その物質は、種類も性質も非常に多種多様で、その性質の違いをうまく利用して生活に役立てている。日々の生活に欠かすことの出来ない物質に親しみ、実験を行いながら、物質についての理解を深めていきたい。

２　学習の到達目標

・身近なものを題材にして講義・実験・実習を行うことで、科学に関する基本的な概念や原理・法則を学んだうえで、観察や実験などの技能を身につける。
・科学に関する講義・実験・実習を通して、身近な生活と科学との関わりを学び、様々な事象・現象を科学的に考察し、導き出した答えを的確に表現する。
・科学に関する講義・実験・実習を通して、身近な生活と科学との関わりを学んでいく中で、様々な事象・現象に関心を持ち、自ら主体的に学んでいく姿勢を身につける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	科学に関する事象・現象について、基本的な概念や原理・法則について知り、その理解を深める。科学的に探究するために必要な観察、実験などの技能を身につける。	生活の中で、科学的な事象・現象に問題を見いだし、観察・実験を行いながら、探究する力を養う。様々な事象・現象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現する。	毎日の生活の中で、科学的な事象・現象に関心を持ち、主体的に関わる。皆と協力しながら実験・観察することで意欲的に探究する態度や科学的な視点を身につける。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	身の回りの科学	衣食住・生活用品・交通・気象など日常生活の中にある身の回りの科学について、気づき、考える。	a:日常生活の中にある、身の回りの物質が何から出来ているか知り、理解する。 b:物質の特性を考え、その成り立ちに基づいて分類して考える。 c:性質の違いから、その利用例で日常生活の事象と関連づけて探究する。	定期考査・実験レポート	定期考査・実験レポート	ノート・振り返りシート
	科学と歴史	科学の誕生・産業革命・戦争など歴史の中における科学の歴史と役割について学ぶ。	a:歴史の中でどのように科学が考えられ、発達してきたかを知り、理解する。 b:物質が何を求めて作られたものかを知ることで、その時代背景を考察することができる。 c:より生活に密着し、豊かにするための改良などを意欲的に探究する。	定期考査・実験レポート	定期考査・実験レポート	ノート・振り返りシート
2学期	生活を豊かにしてきた科学	人工的に作られてきたものがどのように進化・発達してきたかを学ぶ。	a:様々な形で利用されている物質の中に人工的に作られたものが少なくないことを知り、理解する。 b:物質が何を求めて作られたかを知り、どのように改良を重ねたかなどの背景を考えることができる。 c:人工的に作られたものが、引き起こしている問題を探究しようとし、まとめることができる。	定期考査・実験レポート	定期考査・実験レポート	ノート・振り返りシート

	環境と科学	人工的に作られたものの大量生産と大量消費が、地球規模での環境汚染や環境破壊を起こしているかを学ぶ。	a:人工的に作られたものが、生活を豊かにする反面、引き起こしている環境問題について知る。 b:環境汚染・環境破壊について、科学的に表現できる。 c:問題解決のために自分が出来ることを意欲的に探究しようとする。	定期考査・実験レポート	定期考査・実験レポート	ノート・振り返りシート
3学期	これからの科学	環境問題に対して、これまでの学習をどのように役立て、何が出来るかを、グループで話し合い、各班で設定した課題に基づき発表する。	a:環境破壊について理解し、解決策を考えることができる。 b:環境汚染や環境破壊は複合的なものが多く、その解決策について多角的に考察し探究する。 c:発表のため、意欲的に皆で取り組み、発表する。	定期考査・実験レポート	定期考査・実験レポート	ノート・振り返りシート
			a: b: c:			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度